資料４

厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために
Ministry of Health, Labour and Welfare

エムポックスへの対応について

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

エムポックスについて

四類感染症

基本情報

病原体

- ポックスウイルス科オルソポックスウイルス属エムポックスウイルス
- コンゴ盆地型（クレードⅠ）と西アフリカ型（クレードⅡa及びⅡb）に分類される。
- 2022年5月以降、国際的に拡大しているウイルスはクレードⅡbに属する。

疫学

- 1958年にポリオワクチン製造のために世界各国から霊長類が集められた施設においてカニクイザルの天然痘様疾患として初めて報告。1970年にヒト感染事例が現在のコンゴ民主共和国で初めて報告。
- アフリカ大陸以外ではヒトのエムポックスは確認されていなかったが、2003年に米国で愛玩用に輸入された齧歯類を介して、合計71名の患者が発生。死者なし。
- その後、米国等計15カ国で患者が確認されていたが、先進国での発生は輸入事例のみで、アフリカ大陸以外でヒトの間での大規模な感染事例は確認されていなかった。
- 2022年５月～秋にかけて、国際的な流行が発生した（113ヶ国・８万人以上）。
- **国内では、2023年7月21日時点で193例の症例が確認されている。**

感染経路

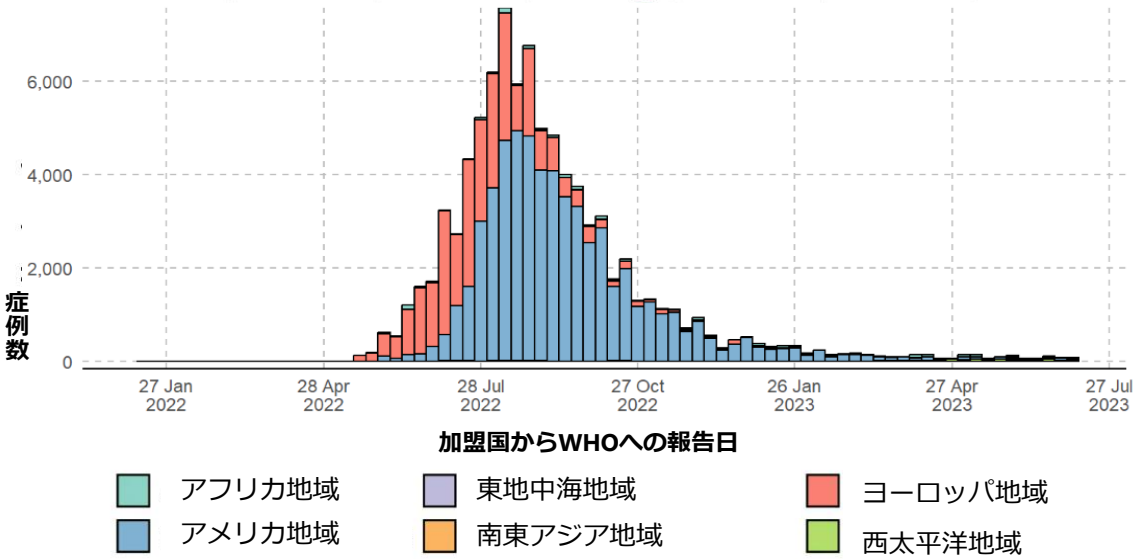
- リスなどの齧歯類が自然宿主として考えられている（クレードⅠ）。
- 感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液との接触（性的接触を含む。）、患者との接近した対面での飛沫への長時間の曝露(prolonged face-to-face contact)、患者が使用した寝具等との接触等により感染。

臨床経過

- 潜伏期間は通常６-13日（5-21日）。症状の出現から、発疹が無くなるまでは感染させる可能性。
- 発疹、発熱、筋肉痛、頭痛、咽頭痛、リンパ節腫脹、肛門直腸痛、その他皮膚粘膜病変。
- 重症例では臨床的に天然痘と区別できず、従来の流行国であるアフリカでの致命率は数~10%と報告。

国外・国内の感染状況について

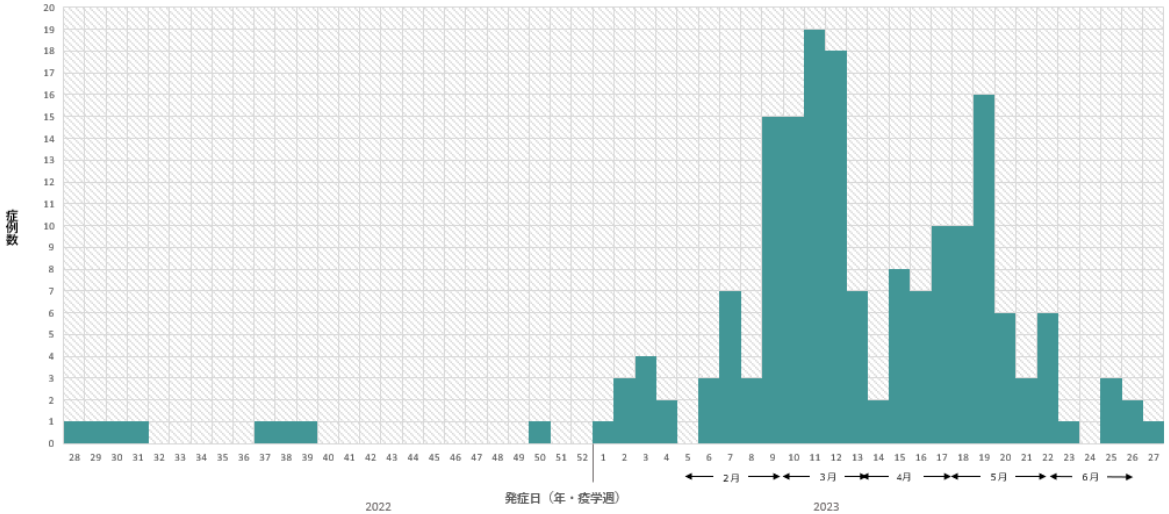
＜WHO地域別の発生状況の推移（2023.7.9時点）＞



＜WHO地域別の発生状況（2022.1～.2023.7.12時点）＞

WHO地域	確定例	死者数
アフリカ地域	1,802	21
アメリカ地域	59,568	119
東地中海地域	90	1
ヨーロッパ地域	25,935	7
東南アジア地域	119	1
西太平洋地域	774	0
計	**88,288**	**149**

我が国におけるエムポックス患者の発生状況（令和４年７月25日～令和５年７月16日）



＜報告自治体別エムポックス患者等の人数＞

自治体	人数
東京都	145
大阪府	19
神奈川県	6
千葉県	5
埼玉県	4
その他	14
計	**193**

＜年代別エムポックス患者等の人数＞

患者等の年代	人数
10代	1
20代	31
30代	65
40代	80
50代	12
60代	3
70代	1
計	**193**

※全て男性

エムポックスの国際的な感染の拡大について

海外の状況

- 2022年5月以降、欧州や米州を中心に国際的なエムポックスの流行が続いていたが、全体の症例の報告数は減少傾向。
  - 2023年7月12日時点、88,288例の確定例（うち、149死亡例）がWHOに報告されている。
  - WHOによると、依然,、報告されているエムポックスの症例の大部分は男性であり、これらの症例のほとんどは、ゲイ、バイセクシュアル、およびその他の男性と性交渉する男性(MSM (Men who have Sex with Men))と自身で認識している男性の間で発生している。
- WHOは、2022年7月21日に、２回目の国際保健規則緊急委員会(IHR EC)を開催。7月23日23時（日本時間）、WHO事務局長は、緊急委員会の見解等を踏まえ、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当する旨を宣言。
- WHOは、2022年10月20日に、３回目のIHR ECを開催。緊急委員会は、WHO事務局長に、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」について「継続」の見解を勧告。
- WHOは、2022年11月28日に、サル痘の名称について、「Mpox（エムポックス）」の使用を推奨することを公表し、今後1年をかけて名称を移行していくと発表。
- WHOは、2023年2月9日に、４回目のIHR ECを開催。緊急委員会は、WHO事務局長に、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」について「継続」の見解を勧告。
- WHOは、2023年5月10日に、５回目のIHR ECを開催。緊急委員会は、WHO事務局長に、現在の状況は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当しない旨を勧告。**5月11日、WHO事務局長は、緊急委員会の見解等を踏まえ、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の終了を宣言**。

エムポックスに対する具体的な対応

予防・診断・治療

予防

- 天然痘ワクチンが、曝露後の発症予防及び重症化予防に有効とされる。
  - KMバイオロジクス社のLC16ワクチンについて、エムポックス予防の適応追加承認（R4.8.2）。
  - **曝露後予防：**国立国際医療研究センター（NCGM）において、患者の接触者に対し、 LC16ワクチンを投与する臨床研究体制を構築（R4.6）。
    ⇒人口の多い大都市圏でNCGMや自治体との連携が円滑に行える医療機関として、大阪府、愛知県、沖縄県、北海道、福岡県における医療機関での臨床研究体制の整備を予定。
  - **曝露前予防**：高リスク群に対するLC16ワクチンの臨床的予防効果を検証する臨床研究を開始（R5.6）

診断（検査）

- 病変部位等からのPCR法による病原体遺伝子の検出、ウイルス分離。
  - 地方衛生研究所での検査を可能とするため、病原体検査マニュアルを作成。現在、各都道府県の少なくとも１カ所の地方衛生研究所で検査が可能。
  - 民間検査会社によるPCR検査が薬事承認（R5.7.12）。

治療

- 2022年５月以降の流行においては大半の症例が軽症であり、対症療法が基本。
  - 国内において承認されている特異的な治療薬はないが、欧州において抗ウイルス薬のTecovirimatが承認されており、国内で、以下の臨床研究を実施。
    - ✓ NCGMのほか、人口の多い大都市圏として大阪府、愛知県、沖縄県、北海道、福岡県、宮城県の医療機関で、入院患者に対して、治療薬（Tecovirimat）を投与する臨床研究。
    - ✓ 重症または重症免疫不全を有する患者に対してワクシニア免疫グロブリン（VIG）を投与する臨床研究。

エムポックスに対する具体的な対応

その他

国内対策

- エムポックスに関する行政対応についてまとめた事務連絡を発出し、随時更新（最終更新：R5. 5 .26）
- 国立感染症研究所においてリスク評価を実施・公表し、随時更新（最終更新：R5.5.10）
- NCGMにおいて「臨床対応の指針」を作成・更新（最終更新：R5.3.31）
- 感染症法上の名称変更に伴い、届出基準及び届出様式を改正（R5.5.26）。

水際対策

- 検疫所で出入国者に対して、海外のエムポックスの発生状況に関する情報提供及び注意喚起を実施（最新R5.6.15）

情報提供

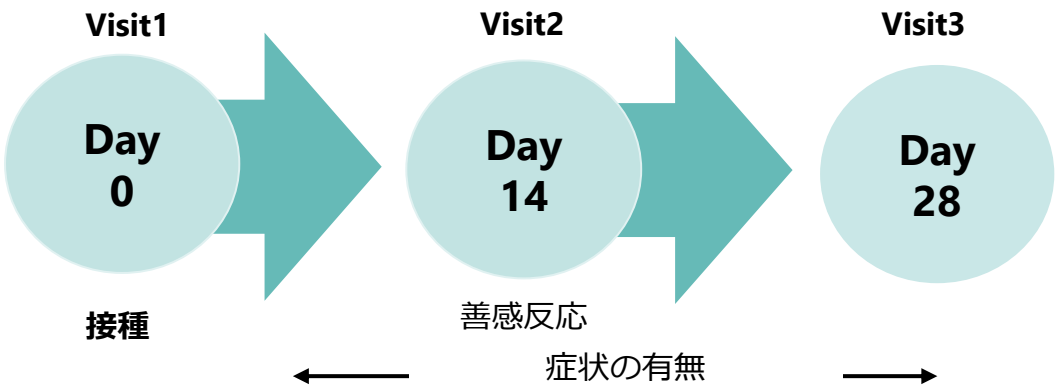
- リーフレットや、厚生労働省、国立感染症研究所等のホームページを通じて、海外の発生状況、ウイルスの感染力や病原性、感染予防策等に関して、MSMコミュニティも含めて、情報発信。記者向けの勉強会を開催。

ワクチン（曝露後接種）及び治療薬に関する臨床研究について

- 接触者に対して、LC16ワクチンを接種する観察研究を実施。
- NCGMを主幹として、大阪府、愛知県、沖縄県、北海道、福岡県、宮城県における医療機関において、入院患者に対して、天然痘治療薬Tecovirimatを投与する臨床研究を実施。
- 令和５年３月より、Tecovirimatによる治療が行われている者であって、重症または重症免疫不全を有するエムポックス患者に対してワクシニア免疫グロブリン（VIG）を投与できる体制を構築。

LC16ワクチンの曝露後接種

https://center6.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr_view.cgi?recptno=R000056918

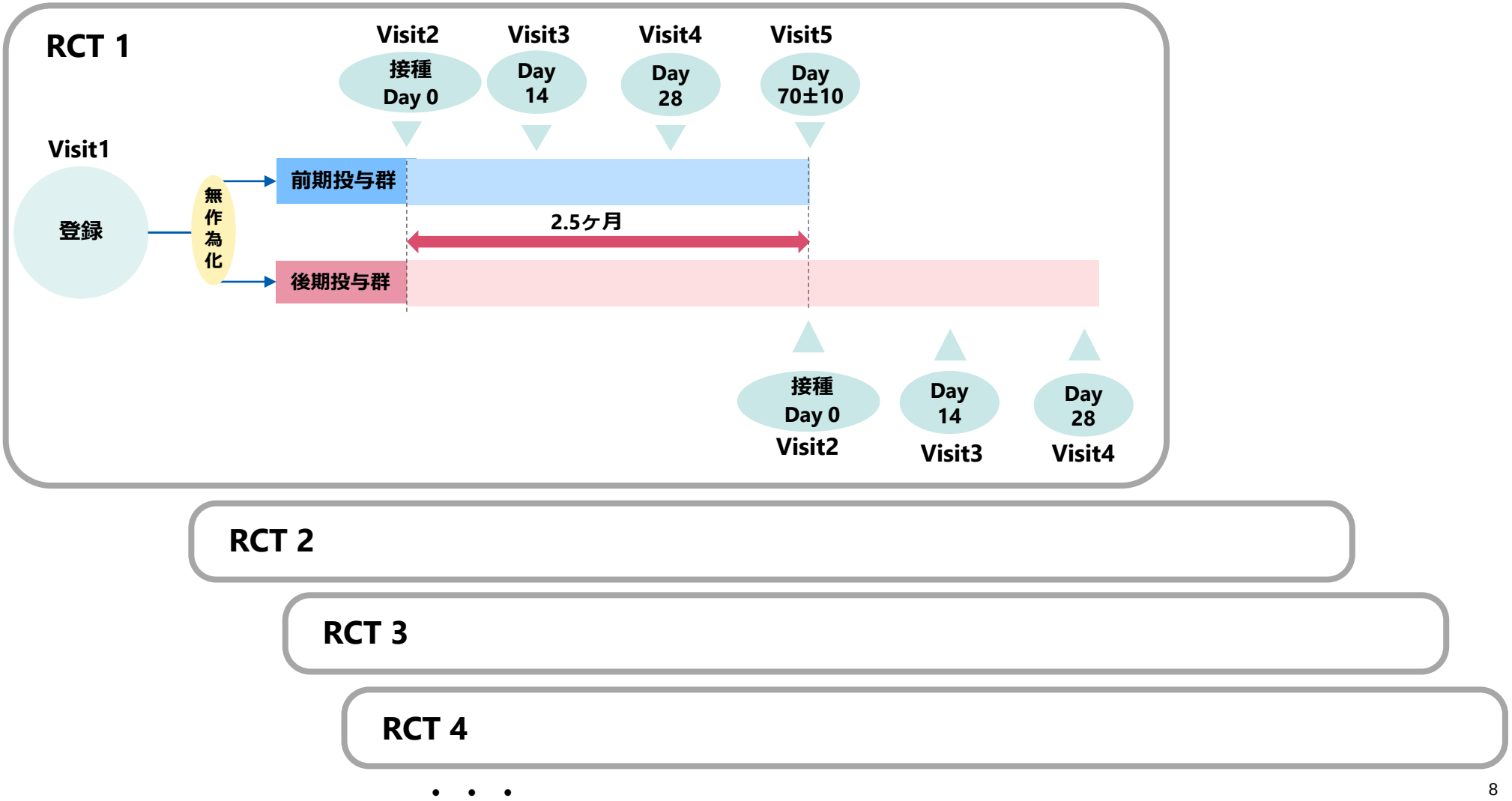


Tecovirimat投与

https://jrct.niph.go.jp/latest-detail/jRCTs031220169

ワクチン（曝露前接種）に関する臨床研究について

- 令和５年６月より、エムポックス感染のハイリスク群に対するLC16ワクチンの臨床的予防効果を検証する臨床研究をNCGMを主幹研究機関として実施中。
- 研究は令和5年度の単年度研究で、研究組み入れは10月まで、接種は12月まで実施される予定。
  https://jrct.niph.go.jp/latest-detail/jRCT1031230137



コミュニティ・アウトリーチについて

- 国立感染症研究所、NCGM、MSMコミュニティのCommunity Based Organization (CBO)、厚生労働省、自治体が協働して情報発信。

ウェブサイトを通じた周知啓発

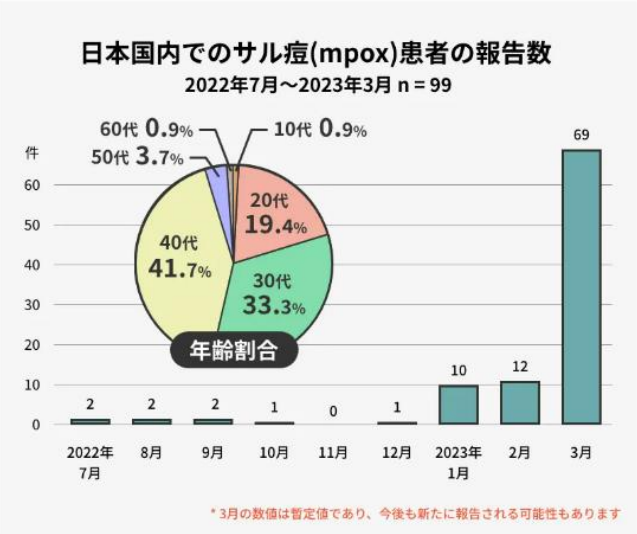
HIVマップポスト >最新ニュース >サル痘（mpox）3月の速報値―2月の5.8倍に急増、地域も拡大

サル痘（mpox）3月の速報値―2月の5.8倍に急増、地域も拡大

April 13, 2023　Modified: 2023.04.13

ツイートする　シェアする　LINEで送る　メールする

2023年04月13日（月）公開



RELATED

NEWS
サル痘（mpox）が日本で感染拡大 ～現状を知って感染リスクを下げ...

NEWS
サル痘（mpox）に感染したかも？と思ったらまずはこちら。症状・受...

NEWS
サル痘（mpox）2月の速報値―2023年に入って急増中！

FEATURE

INTERVIEW
【クリエイターインタビュー 1】「掘るスコープ2」イラストレータ...

NEWS
サル痘（mpox）に感染したかも？と思ったらまずはこちら。症状・受...

EPISODE
梅毒感染エピソード①「セフレや恋人に伝える？」(30代後半 男性・o...

NEWS
イルカと一緒に性探求!?『掘るスコープ2～星のイルカに導かれ～』、...

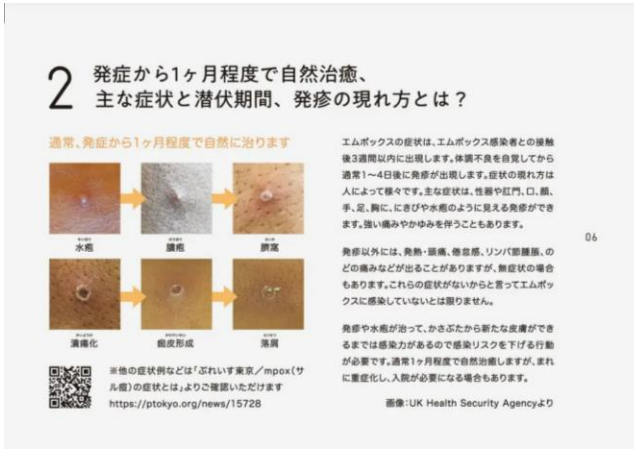
EPISODE

SNSへのバナー広告掲載

※画像は一部加工

コミュニティ・アウトリーチについて

リーフレットを通じた周知啓発



2 発症から1ヶ月程度で自然治癒、主な症状と潜伏期間、発疹の現れ方とは？

通常、発症から1ヶ月程度で自然に治ります

水疱 膿疱 膿瘍

潰瘍化 痂皮形成 落屑

※他の症状例などは「ぶれいす東京／mpox（サル痘）の症状とは」よりご確認いただけます
https://ptokyo.org/news/15728

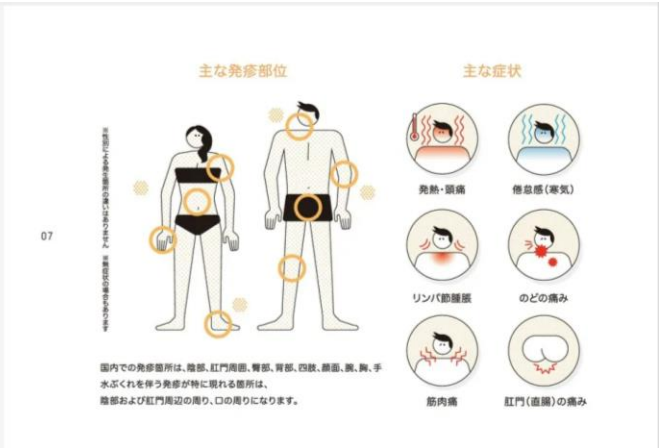
エムポックスの症状は、エムポックス感染者との接触後3週間以内に出現します。体調不良を自覚してから通常1～4日後に発疹が出現します。症状の現れ方は人によって様々です。主な症状は、性器や肛門、口、顔、手、足、胸に、にきびや水疱のように見える発疹ができます。強い痛みやかゆみを伴うこともあります。

発疹以外には、発熱・頭痛、倦怠感、リンパ節腫脹、のどの痛みなどが出ることがありますが、無症状の場合もあります。これらの症状がないからと言ってエムポックスに感染していないとは限りません。

発疹や水疱が治って、かさぶたから新たな皮膚ができるまでは感染力があるので感染リスクを下げる行動が必要です。通常1ヶ月程度で自然治癒しますが、まれに重症化し、入院が必要になる場合もあります。

画像：UK Health Security Agencyより

06



主な発疹部位

※性別によって発疹の部位は異なります ※無症状の場合もあります

国内での発疹箇所は、陰部、肛門周囲、臀部、背部、四肢、顔面、腕、胸、手水ぶくれを伴う発疹が特に現れる箇所は、陰部および肛門周辺の周り、口の周りになります。

主な症状

発熱・頭痛 倦怠感（寒気）

リンパ節腫脹 のどの痛み

筋肉痛 肛門（直腸）の痛み

07

4 すぐに始められる感染リスクを下げる予防対策

エムポックスはウイルスによる感染症です。感染者との接触を避けることが大切であると共に、感染リスクを下げるための予防と手洗いなどがとても重要です。また、完全に感染リスクをゼロにすることは難しいですが、複数の相手や不特定の相手とセックスをする場合でも、ここで紹介しているようなことを試みることでリスクを減らすことができます。

- 手を石鹸や流水でよく洗ったり、アルコール消毒をする 感染している人の使った物の共用を避ける
- お互いの体全体に異変がないかチェックをする
- セックスのパートナーを限定したり、セックスの相手の数を少なくする
- 感染リスクの高い場所やプレイを避ける
- コンドームを使用したセックスをする
- 具合の悪いときはセックスを控える

Check! Check!

体全体に異変がないかチェック 体調不良のときはセックスを控える

口、性器（陰茎、睾丸、外陰部、腟）、肛門を含む、お互いの体全体に、新たな発疹や原因不明の発疹が出来ていないか明るい場所で確認しましょう。暗くて確認ができない状況でのセックスは控えたほうがいいでしょう。また、体調が悪い（免疫が下がっている）ときも、控えるようにしましょう。

10

セックスのパートナーを限定したり、相手の数を少なくする 感染リスクの高い場所やプレイを避ける

特定のパートナーとのセックスを心がけ、相手の数を減らしたり、不特定多数とのセックスを控えるようにしましょう。また、安全ではないセックスを避けることで、感染リスクを下げることができます。

コンドームを使用したセックスをする

コンドームは、サル痘ウイルスだけでなく、HIVや梅毒などの性感染症予防にも効果があるため、使うことをおすすめします。ただし、覆われていない場所の発疹に触れることは防げないので、完全に予防できるわけではありません。

手洗い・アルコール消毒 感染者の使用した物の共用を避ける

手をよく洗いましょう。特に食事の前、顔に触れるような動作の前、トイレの後は、石鹸や流水でよく手を洗ってください。アルコール含有消毒薬による手指衛生も有効です。

※抗HIV薬を使ったPrEPでは、エムポックス、性感染症を防ぐことはできません

11

お店やイベントで感染リスクを減らすために

エムポックス MPOX / SARUTOU

日本で今まさに、エムポックス（サル痘）感染の報告が増えています！

2023年から日本の複数の地域で増えています

2 2 2 1 0 1 10 12 70（人）

2022/7 8 9 10 11 12 2023/1 2 3（月）

受診日別（4月13日時点）

海外では、男性同士の性的接触での感染が多く報告されています

エムポックスに感染したかも…

そんな時は、性的接触（セックス、キス）、直接の接触などはひかえよう

※年齢、性別、性的指向、性自認などを問わず、誰でも感染する可能性があります。

お互いの感染リスクを下げるには？

- 家を出る前に体調を調べよう。体調が悪いときは、お店やイベントに行くのをひかえよう
- リスクが高い状況を減らそう

エムポックスの感染リスクが高い状況
- 肌と肌が触れ合う可能性が高い
- 参加者の肌の露出度が高い
- 飲み物をシェアする
- 多くの人とキス、ハグ、セックスする

- お店やイベントで体調不良に気付いたら
  - できるだけ、帰って休みましょう。
  - 肌に原因不明の発疹（ブツブツ）や水ぶくれ、カサブタなどがあったら、すぐにその部分をガーゼや服などでおおいましょう。
  - 持っていたら、マスクをしましょう。

ばんそうこうは、白いガーゼの部分でおおう

そして、できるだけ早めに医療機関を受診！

詳しくはこちらへ

mpox（サル痘）が日本で感染拡大［HIVマップ］ 流行状況、症状、治療や予防方法などの解説

MPOX GUIDEBOOK［ガイドブック］ 基礎知識をイラスト入りで説明

感染したかもと思ったら［HIVマップ］ エムポックスをみる医療機関情報のまとめ

感染症コミュニケーション形成会議 2023年4月7日